



キャンドルサービス Candlelight service



12月24日、厳かにキャンドルサービスが開催されました。



セントノアサンタから患者さんにプレゼント！中身は果たして…



こりやあ
うれしい…



ダイルームにはちびっ子聖歌隊の合唱が響き渡りました



「おじいちゃん、おばあちゃん
いつまでもお元気で！」



患者さんのピアノ伴奏
素敵でした！



スタッフ紹介

3病棟	看護師
こばやし	あきこ
小林	光子
星座	魚座
血液型	A B型
趣味	保存食作り

入職して6カ月経ちました。皆さんに優しく見守られ毎日楽しく仕事が出来ています。これからいっそう加速していくであろう高齢化社会に向け、重要さを増していく認知症ケアを学ぶことができ良かったと思っています。



～目次～

- 病院短信
 - 日常の一コマ
 - いきいき看護・介護
 - 栄養科だより
 - キャンドルサービス
 - スタッフ紹介
- 田巻 國義
藤井 めぐみ
加藤 知恵子
穴久保 沙耶香
病棟ダイルーム
小林 光子

1月の予定

◇誕生日会 & 初詣 & 獅子舞

1病棟	1月 5日 (水)
2病棟	1月 11日 (火)
3病棟	1月 7日 (金)
各病棟ダイルーム 14:00～	



病院短信

『年頭のご挨拶』

院長 田巻 國義

新年おめでとうございます。令和の年号によるやく馴染んだと思つたら、もう今年は令和4年です。昭和時代に生まれ育つた自分には、平成が過去の時代であつたと実感できないまま、新年を迎えたような気がします。孔子が黄河のほとりに立って、「過ぎ逝く月日は、この流水の如く速く、やむ時がない」と嘆息したそうであるが、昨年は私の周囲の同世代の仲間が一人また一人と幽明の界を異にするのを目の当たりにした年でもありました。さて、昨年令和3年もコロナウイルスとの共存を余儀なくされた一年でしたが、日本ではオリンピック開催などのイベントで国全体のチームワークを発揮し、野球の大谷選手やゴルフのマスターズ優勝の松山選手など、外国で活躍した年でもありました。

年末には90才の真鍋博士のノーベル賞受賞などの嬉しいニュースも入ってきました。

当院も新型コロナのため、家族の方の面会などで不自由な思いをさせましたが、何より入院患者をウイルスから守るために必死の一年でした。何とか無事に新年を迎えることが出来たのは、家族の方の協力とスタッフの日夜の努力のおかげだと感謝しております。

当、医療法人忠洋会は川越セントノア病院が20年目、春日部セントノア病院が17年目を迎えます。

認知症の専門病院として開設以来掲げてきた

一、身体拘束は一切しない

一、入院期間に制限を設けない

20年前には画期的と思える目標を守り、医療と福祉の併用を積み重ねてきました。

入院患者さんの平均年齢も83才と高齢化が進んでいます。最高齢104才の方、今年で入院満10年を越える患者が10名を越えます。毎日の経口摂取の介助、入浴、オムツ交換、音楽療法や広い庭の散歩、リハビリ体操など、医療というより自宅では困難な地味なケアが続きます。

入院患者の穏やかな表情を見て、多くの家族の方が喜んでくれます。人生100年という言葉がニュースでも聞こえてくる時代になりました。現役時代は、家族のために大いに活躍された入院患者の終楽章を明るく穏やかにフォローする、当院の役割は益々大切になると思います。当院は国道沿いの見晴らしのいい場所にあり、病院の庭には、広い芝生があります。芝生を囲むように植えられた50本の桜の木もだいたい成長しました。周囲は水田が残り、晴天時は、はるか遠くに富士山が見えます。今年こそ心静かにお花見したいと思っています。

開設して1年目の病院短信に私の句がありました。
 ・車椅子 洗面介助の 湯がけむり
 ・病む人と 眺む落ち葉の 吹きだまり
 当院の日常の風景です。

今年の干支は寅です。寅は強い信念と逆境に負けない強さが特徴とのことです。

「ピンチの時こそ、その人の真価が問われる」と言われますが、穏やかな日常を取り戻すにはもうしばらくの辛抱が必要でしょうか。

ともあれ、今年こそ皆様にとって、良い一年となるように祈願して年頭の挨拶と致します。



日常の一コマ

今回は1病棟のトヨ子さん（86歳）の一コマです。

トヨさんは東京目黒区のご出身で中学を卒業後、親戚の食堂を手伝いながら調理師免許を取得、都立の保育園や足立区でも調理師として67才ごろまで仕事をしていました。そんな働き者だったトヨさんですが、今から10年程前、当院に入院される数か月前になりますが、突然、最愛のご主人に先立たれたそうです。そのショックは大きく、精神的な混乱、不眠、独り言を続けるなどの認知症の症状が出始め、娘さんの保護のもと精神科病院での外来受診やショートステイ、施設への短期入所などを経て当院に入院されました。



入院当初のトヨさんは「見守り歩行」（スタッフが傍に付きながら歩行をさせる）ではありましたが、ゆっくりと歩行し、食事もご自分で食べていました。しかしこの10年、年齢とともにトヨさんのADL（日常生活動作）も徐々に低下し、入院中には急性肺炎などの命の危機にさらされたこともありました。でもトヨさんはその都度、頑張っ乗り越えられてきたのです。しかしADLの低下とともに今は車椅子での生活となつてしまい、さらに日常生活では全ての介助が必要となつてしまいました。

何年か前、私が現在の1病棟に移動になり、トヨさんと初めて会った時、多分、私が不安げな顔をしていたのでしょね。トヨさんは「疲れているの？」「ちゃんとお休みしている？」と優しく声をかけてくれたことが、いまだに忘れられません。最近トヨさんから話しかけてくることはあまりなくなりましたが、それでも「トヨさん、お風呂ですよ」と声をかけると「お世話になります」と返事が返ってきます。又、違うスタッフが「トヨさん、ハトポッコの歌を歌うよ」と声をかけ、ポッコポッコと始めると「ハトポッコ」と続け、「豆が欲しいか」とスタッフが続けるとトヨさんが「そらやるぞ」と掛け合います。いつの間にか周りの人たちが歌いだし、そしてみんなが笑顔になります。

そんなトヨさんが、いつまでも私たちと一緒に歌をうたい、笑顔で楽しい時間を過ごしていただけるよう、私たちスタッフも心から願っています。 1病棟 介護福祉士 藤井 めぐみ

【一コマ後記】

病院新聞記事の「日常の一コマ」にトヨさんの事を掲載する許可を得るために娘さんにお電話をしたところ、『うあー、日常の一コマに載せてもらえるんですか！』ととても喜んで頂きました。話によれば娘さんは一人っ子で、トヨさんとは母子一体のように育ってきたそうです。『子供の頃から和服の好きな母に素敵な着物を作ってあげたい、海外旅行にも連れて行ってあげたいと思っていたのに何も叶えてあげられなくて』と娘さん。そして『母がこの病気になって、これまでの施設や病院ではいつも眉間にシワを寄せていたのに今は穏やかで、手を握ると暖かくて「お母さんだ」と感じる瞬間です。今、元気でいてくれることがとても嬉しいです。ここには100歳の方が何人もいらっしゃいます。その人たちの仲間になれたらと思っています。』 もちろん私たちもそう願っています。 ホスピタルライフマネージャー 田中 ひとみ

栄養科 だより

管理栄養士 穴久保 沙耶香

新年おめでとうございます。

食べることは楽しみのひとつ。本年も1食1食を大切に提供していきます。

さて毎年少しずつ中身が異なるおせちですが、今年は若桃の甘露煮が入りました。一見すると青梅にも見えますが、摘果した若桃を甘露煮にしたもので、種まで柔らかく食べることができます。



『いつまでも若々しくいられますように』との願いを込めておせちに使われています。これは若桃という名前からだけでなく、セラミドが豊富に含まれることから由来しています。セラミドはヒトの皮膚の角質層の主成分で、外部刺激や乾燥を防ぐバリア機能で知られていますが、加齢に伴って減少してしまいます。若桃で保湿力アップを目指して、本年も若々しく過ごしたいものです。



いきいき看護・介護

1病棟

看護師

加藤

知恵子

マスク着用が新しい習慣となった今、マスクを長時間していることによる息苦しさから、また表情筋や唇、舌の筋肉が緩むことにより、「口呼吸」をする人が増えています。口を閉じていれれば口内は唾液で潤っている状態ですが、口呼吸により口内の唾液は乾燥し、抗菌作用や自浄作用の効果が薄れてしまいます。また鼻による、フィルター、加湿、エアコン機能を介することがないため、ウイルスや細菌が冷たい空気とともに直接肺に侵入しやすくなります。

そこで、普段の生活の中で取り入れやすい3つの対策をご紹介します。
 ①舌をぐるぐる回す（1日10回）
 ②うがいをする時、唇をしっかりと閉じて頬を大きく動かす
 ③よく噛んで食べる（一口につき30回以上）

本来は口を閉じて、舌を上顎にピタッと付けて「鼻で呼吸」するのが理想です。日頃から意識してみましょう。

